

第17回 富山県生涯学習審議会 議事概要

- 1 日時 平成17年3月23日(木) 14:00~16:00
- 2 場所 県民会館302号室
- 3 議題
 - (1) 報告「平成17年度における県の主な生涯学習推進施策の概要」
 - (2) 協議「富山県生涯学習新世紀構想(学びあいビジョン)の見直しについて」
「富山県民生涯学習カレッジの現状と今後のあり方について」
- 4 配布資料
 - 資料1 富山県生涯学習審議会条例
 - 資料2 第7期富山県生涯学習審議会委員名簿
 - 資料3 富山県生涯学習推進本部幹事会幹事名簿
 - 資料4 平成17年度における県の主な生涯学習推進施策の概要図
 - 4-1 ふれあい豊かな生涯学習社会の実現に向けて
 - 4-2 県民カレッジ17年度事業における生涯学習講座の見直し
 - 4-3 青少年教育施策体系
 - 4-4 子どもかがやき教室推進事業
 - 4-5 家庭・地域の教育力活性化支援関連事業の概要
 - 資料5 富山県生涯学習新世紀構想の見直しについて
 - 5-1 富山県生涯学習新世紀構想の見直しについて
 - 5-2 生涯学習新世紀構想(基本目標の体系図)

参考資料: 中教審生涯学習分科会「審議経過の報告」(振興方策の概要)

 - 資料6 県民カレッジ 学遊とやま 2004年版(抜粋資料)
(当日配付資料)
 - ・県民カレッジ 学遊とやま2004年版(冊子)
 - ・県民カレッジ高岡地区センターだより(平成16年度年間事業報告特集号)
 - ・家庭教育かわら版(臨時増刊号)
 - ・県民カレッジ 平成17年度前期講座案内
 - ・県民カレッジ地区センターだより(新川・高岡・砺波)
- 5 議事等
 - ・今回の審議会開催の目的は、委員の方々からご意見をいただき、平成17年度の生涯学習推進主要施策の実施に生かしていくこと、及び「富山県生涯学習新世紀構想の見直し」「県民カレッジの今後のあり方」について検討すすめることにある。
 - ・県側の説明については省略していますので、各資料をご覧ください。
 - ・今回、会長は都合で欠席となったため、副会長が職務を代行した。
 - ・ は委員意見要旨、 は事務局説明要旨です。
 - (1) 資料4について事務局より説明があった。
 - (2) 「富山県生涯学習新世紀構想(学びあいビジョン)の見直しについて」
「富山県民生涯学習カレッジの現状と今後のあり方について」
については、概ね次のような発言が行われた。

<報告事項について>

副会長 事務局から県の事業等について報告がありましたが、ご質問やご意見等がありましたらどなたからでもお願いしたい。

子どもかがやき教室について、教育委員会がやっている教室の他に、例えば農林水産省の関係で「田んぼの学校」など教育委員会以外でも子どもを集める事業がある。また、この「田んぼの学校」以外にもあるかもしれませんが、窓口が県庁の各部局になっていることがあるとしたら、子どもに関わることなので教育委員会には必ず情報が集まり、かがやき教室との横のつながりや情報がきちんと広報されるようにしてほしい。

また、大きな予算が出ていると思うが、3年間の事業なので、3年間で過ぎた後を考えているかを尋ねたい。ずっと予算をつけることはいいと思わないが、各かがやき事業が育っていけばいいと思っている。

最近、官営民営についていろいろ話題になっているが、富山県は教育に関しては100%官営だが、生涯学習について将来的には民営にスタンスを移すのか。また、民間や市町村で行っていることと、県で行っていることとの調整をしているとのことだが、今後は、県の事業を市町村に渡すのか、民で行っていることは民に任せるのか、その方向性について聞かせていただきたい。

農水省の事業は承知していて、各市町村にも連絡をしている。農水省関係の件で市町村の農林課の方から、かがやき教室では生涯学習室から事業がいつているが、重なっていることは全くないと思う。農水省は市町村で1つ、かがやき教室は小学校区で1つの事業で、守備範囲が違うと考えている。「田んぼの学校」での活動を希望するののももちろん結構だと思う。どこかで子どもたちが元気に活動していればよいと考えている。

また、都合で活動する子どもたちが少なくなっても、なぜ少ないか追求しないことにしている。事業が3年間ということについては、事業開始前から伝えてあるし、地域で子どもを育てようというきっかけづくりと考えている。今は、人材を発掘したり、教室を新しく開いたりすることに、お金が入っているが、やはり、将来も是非このかがやき教室は継続していただきたいと思っている。お金は潤沢にまわらないかもしれませんが、地域で子どもを育てようとするのを続けてほしいと考えている。

最近、どこへ行きますとも聖域なきカットという話が出ている。県民カレッジの運営費は、昨年度と比較してどのような数値だろうか。

生涯学習カレッジは元々公設民営で事業を行っているが、実際には県営の形になっている。県民カレッジの今後については、県が先導的に行っていることや県しかできないことは、県が行うべきだろうと考える。市町村や民間等がどんどんやってきていることはそこにお任せして、手を離そうというのが県としての基本的な姿勢であると考えている。

また、カレッジ運営費について、人件費を除く事業費ベースで約20%減、金額では新聞報道等もありましたが、約2130万円の削減になっている。

子どもかがやき教室の開催について、開催するとき事業の内容について地元の要望はどこまでとりいれられるのか。

16年度から事業が始まっているが、各小学校区で是非開催してほしいとあっていました。小学校は218ですが、隣の小学校で行っていると17年度は「うちの小学校でも」という話になり、展開している小学校が増えてきている。

また、統合された小学校などは範囲が広すぎて子どもの徒歩の範囲でない場合もあり、地区の公民館などを活用して実施している場合が多い。全部の小学校区というわけではないが、このようにだんだん広がっているのが現状である。事業の開催については各市町村に希望調査を依頼した後、こちらでまとめており、自然に広がっているものだと思っている。

< 協議事項について >

副会長 最初の議題「生涯学習新世紀構想の見直し」について、現在の構想の基本理念や重要課題において、欠けている観点やこれらの見直し作業を効果的に行うために何かご意見や留意点について、ご自由にご意見をいただきたいと思う。

市町村との連携などの話があるが、「世界的な流れ」との連携について、2005年から国連の方で「教育の10年」というのが始まりました。環境サミットで小泉首相が提唱したものが、その後、国連で採択され、「持続可能な開発」のための「教育の10年」が、この1月からスタートしたわけです。この「持続可能な開発」のための教育というのは、端的に言うと「未来をつくっていく学びの場の創成」と考えている。自分たちの今の暮らしが（質的なものが）続いていくためには、どうすればよいかということみんなで考える運動を世界的に巻き起こしていこうというものです。今、ユネスコでイニシアチブを取って実施計画をつくっているが、各自治体でもその動きが始まると思います。私たちの地域を子孫に残していくための学びの場をつくっていく運動について、民の方でのまだ形になっていませんが、担当をたらい回しにするのではなく富山県でもその窓口をつくっていただきたいと思う。

映像センターが教育文化会館にあるとわかっている人が少なく、有効に使われていないのではないかなと思う。映像ライブラリーの場所を、県民の目を引きやすい所、例えば県民会館1階に移してはどうか。今は、映像に関するニーズが高く、利用価値も高いと思われる。

教育長さんの挨拶の中で、ニートの話がありました。生涯学習で青少年や中高年の活動はよく見えるのですが、高校を卒業してから家庭を持つまでの期間が生涯学習として空白となっている。今、年齢別の生涯学習参加者のデータはわからないが、この層はどうなっているか聞きたい。生涯学習新世紀構想の見直しでは、ここを対象とした内容を考えてほしい。

年齢別のカレッジ利用者のデータはありませんが、比較的高齢者が多くなっている。高校を卒業してから家庭を持つまでの世代の受講者はほとんどないと思う。この件について、これからの課題であると国の報告の中にもあるし、室の方でも重要であると考えている。

資料5-2について、基本目標のところ「学習したいと思ってもきっかけがつかめない人」とあるが、まだ隠れた潜在的なニーズはあると思う。講座情報をキャッチできない人や平凡に暮らしたい人とは（意欲的な人と比較して）学習機会に差があると思います。「職業能力開発の充実」で、雇用と結びつけられる具体的な方法が必要であると感じる。また、「学習支援ネットワーク」について、支援ネットワークの体制を整備充実することをもっと具体的に、例えばNPO、NGOなどの民間グループとのタイアップや協働による企画を行うことなど入れると良いと思う。

また、私は大阪出身ですが、県民カレッジにはいきたいと思う講座があまりない。例えば、県外者を対象に富山を紹介する講座を開催してはどうか。また、県民全体が「越中おわら」を踊れるようにしていく講座もよいと考えている。大阪府でもやっているが、意欲のある若者たちの力を借りるためボランティアとして指導し、子どもたちのキャンプの付添としての活用を考えてはどうか。

生涯学習講座の見直しにおいて、教養性の高い講座は残すべきと思う。また、市町村へ任せるとも良いと思うが、県民カレッジにおいて、受講生が多く県民のニーズが高い講座は競合があっても残すべきであると考えている。また、資料に5年間の受講者数の推移が載

っているが、大きく増減している年もあるが講師の人気も影響しているのか。どのような理由があるか。

基本的に14年度までは講座もどんどん増えていた時代で、受講者の数についても増えていたが、15年度からは講座の見直しで少し受講生の数は下がっている。夏季講座では、講師の人気や著名度が大きく左右しているようだが、市町村との違いを出すために教養性を出したい。自遊塾についても、生涯学習ボランティアの実践の講座だから、どんどん広げてきましたが、民間カルチャーとの競合を避け、15年度からは講座内容等を見直しているため受講生の増減がある。

昼の時間の講座の開設が多いような気がする。働いているものは日中の講座の受講は難しいので、夜間開講の講座を増やしてほしい。また、青少年の家等を利用して、親子や祖父母と孫の自然体験ができる講座を開催してはどうか。

私の所でもカルチャーセンターをやっているが、民間との競合を避けるのは大変良いことだと思う。新たな見直しの中で、雄峰高校で特別講座を開催できるようになったことは大変良いことであると思う。生徒の頃はおもしろくなかった授業でも年を取るとまた聞いてみたいということもあると思う。富山以外の3地区での特別講座はどうか。

他の3地区も、となみ野高校、志貴野高校、新川みどり野高校で特別講座を受講できるようになっている。来年度、雄峰高校でも受講できるように新たなサービスを追加しました。

中教審の報告の最後に、国、地方公共団体の今後の役割について記載されている。その中で、県は広域連携の中心としての役割を持つという方向性が記載されている。今までと同様、県の生涯学習の牽引役として、カレッジ本部や地区センターで学遊祭を開催し、発表会や交流会を行うことは生涯学習の振興のためには良いことだと思う。国のレベルでは、平成6年に全国のフェスティバルが開催されたように、県レベルの生涯学習フェスティバルを開催し、県内各地で持ち回りを行って「いつでもどこでもだれでも楽しく学ぶ」ということを体験してもらうことをできないか。財政的にも厳しい状況だが、是非検討していただきたい。

私の教室では、小さい子でも必ず体験入学をしていただいている。県民カレッジの講座にも、講座を見てまわったり、体験できるコースを設定できないか。

良いご指摘ですが、実際には見学は実施していません。新たに、17年度から県政バスを利用して、県民カレッジの講座をPR、体験できるコースを設定しました。

授業参観のようにいくつも講座をまわって、自分で選ぶこともいいことだと思う。また、かがやき教室について、地域の学校で開催しているのは、初めて知りましたが、その内容というのは、資料に、「ボーイスカウト」「キンボール」等と書いてあるが、子どもたちの要望か、講師が決めるのかお聞きしたい。また、学校ごとに違うか聞きたい。

かがやき教室について、大人の実行委員会ではほぼ決めている状況です。子どもたちの意見をどの程度まで聞いているかは、調査していないが、子どもにはこれだったら受けるとか、たくさん集まるとかを考えて開催していると思う。

できれば、子どもたちの意見を少し取り入れてやっていただきたい。子どもを惹きつけるのは大変なことで、熱意のある方が中心となり、子どもを惹きつけるおもしろい教室になったら良いと思う。

若い人向けの講座についての意見もあったが、女性だと同じ目線で（肩書き抜きで）おつきあいができますが、男性の場合は難しいと感じることがある。団塊の世代の方が今後、社会を卒業されて（生涯学習の場に）出てくるわけですが、サンフォルテの図書室でそのような方が長時間過ごしているのをよく見かける。そのような男性の方はプライドがあり、仲間づくりができないことも多いようだが、健康ですし、そのような方に参加していただいて、今まで培った能力を生かして活躍できる場の設定ができないか。私は、県民の海外派遣事業にそのような男性と一緒に参加したが、プライドを持って生き生きと活動していらっしゃいました。それをよりどころとして、新しい活動を始めておられます。プライドが持てるような位置づけができる様な企画を考えていただきたいと思う。

県民教授について、自己申告なのか、推薦なのか聞きたい。専門職を定年とともに辞めるのはもったいないので、先ほどの話と関連で、県民教授として活用できないかと考えている。

県民教授とは、県民カレッジ自遊塾を担当する講師をいう。まず、県民カレッジでボランティア教授の募集をし、今回は80人ほどの応募がありました。カレッジで審査をして、教えるボランティアとして学んできたものを発揮してもらって県民教授として講座を担当していただく。指導分野がバラエティに富んでいて、「生き生きとやま」をつくる原動力になっていると考えている。この自遊塾は非常に大切な講座で、県だからできる講座の1つと考えている。現在はいくつかの市町村でも、似たような講座が開催されつつある。

資料4-1について、県民カレッジ及び地区センターの両方で連携講座が250と多く抱えているのではないかなと思う。ビジョンがなく講座の開催について人頼みのような気がする。県民カレッジの機能としての学習情報の収集と提供について、連携講座のパンフレットはいいと思うが、学習機会の提供として人頼み過ぎるような気がする。調査研究で連携講座の点検を行なってほしい。連携に参加している我々にもその結果から、示唆をいただけたらと思うし、県の生涯学習構想についてもヒントが出てくると思う。単に連携という名で講座を集めるだけでなく、何かビジョンを持って進めてほしいと思う。

学遊祭や3つの地区のキャンパスフェスティバルにおいて、カレッジの講座受講者の発表の場を設定してほしい。自遊塾や生涯学習団体は4地区に分かれての発表の場はあるが、専門講座の受講生の発表の場がなく、横の連携もとれていないような気がする。

さきほどの「持続可能な開発」のための「教育の10年」のつづきで、「中教審」のポイントの5番目の「地域課題の解決」と関連できると考える。新しく始めるのではなく、大阪府などは、すでにこの考え方を取り込みながら、地域の活性化につなげている。地域課題の解決を目標にしながら学びあう場は、今までの生涯学習の場の中には希薄だったと思う。子どもや老人が別々に学ぶのではなく、自分たちの地域について世代を超えて学びながら知恵を出しあっていけば、政策提言の力もついていくと思う。このような市民を育てることが自治体のためにもなると思う。生涯学習の枠組みを新しくするきっかけをつくってほしいと思う。

学びあいビジョンの見直しについて、基本理念の「いつでも、どこでも、だれでも、楽しく学び」は、長い間生涯学習社会を構築していく段階でなされてきた。ユネスコの5つの勧告の中で、「いかに生きるか」「いかになすか」などの5つのものが基本理念の中にあると思う。基本理念の中にある「心豊かによりよく生きる」と関連して、最近では生涯学習の中心に「スローライフな社会づくり・スローライフな生き方」が提言されているようです。生涯学習の基本理念に取り入れているところもあるようです。「ゆっくり、ゆったり、心豊かに」の標語の元に生涯学習社会の形成に取り組んでいるところもある。「これからの社会のあり方、人間の生きる社会づくり」の方向がいかがかと考えている。

もう1つ、かがやき教室について、3年間、国の指定や財源の保証があつていろいろな活動ができるわけですが、これがなくなったらどうするかということです。前には、元気活動支援事業が3年間あったと思う。今は、かがやき教室事業が3年間ということですが、3年間同じようなことを行うのではなく、1年目は新しい事業だから地域の協力体制づくり、2年目は子どものニーズや活動メニューの作成、3年目は自主的に運営できるような方向へ持って行く。このように、部局で計画的な地域の取り組みの指導をお願いしたい。このことが生涯学習につながるよう体系的な取り組みになるようにしていただきたい。

副会長 今回のユネスコの報告についてですが、「学習」というタイトルで、副題は「秘められた宝」で、だれもが身体の中に磨けば光る宝を持っているという意味です。この中で4つの柱がありまして、「 することを学ぶ、 なす事を学ぶ（実践に生かすことを学ぶ）、 とともに学ぶ（世代を超えて、地域を越えて一緒に生きることを学ぶ）、 一人ひとりが自分を生かして、存在するために学ぶ」となって、生涯学習の柱となっている。富山県でも、基本理念が立てられているが、さらにすすめたら良いというご意見だったと思う。

市の方で生涯学習や生涯スポーツの事業を展開している。生涯学習の分野では年代に応じたプログラムやニーズに応じたプログラムの提供が難しくなってきたという感じを受けている。高齢者世代は多くの方が受講されているが、高校を卒業してから家庭を持つまでの世代はほとんど参加されていない。新たな参加者を掘り起こすという点では市町村も県も同じであると感じている。

団塊の世代が退職する年代になるという話があるが、生涯学習に触れあうという点では、これからは在宅学習の中心であるインターネット市民塾の充実が重要と思う。

生涯学習を広めるにはどうしたらよいかという点で、委員から生涯学習フェスティバルを開催したらどうかという提案やいろいろな意見がありましたが、例えば、読書週間のように、富山県で生涯学習について考えるための、マスコミや様々な方の協力を得て、フェスティバル（学遊祭）を中心とした生涯学習月間を開催してはどうか。もちろん、最後はフェスティバルで締めくくることになる。

かがやき教室の子どもたちについてお願いしたいと思う。子どもたちはスポーツ少年団や様々な団体に入っているため、かがやき教室のことを聞いたときどうかなと思いましたが、学校へかえって地域でどんなことができるかと話し合ったとき、山村教室やおじいちゃん・おばあちゃんに昔の遊びを習う、俳句を作ろうなどいろいろな指導者がいらっしゃいましたので、実際に立ち上げました。今年もまわりの学校の様子を聞いて、教室をふやし、新たな指導者をむかえるなど広がりもできました。3年間という事で、その後も続けていく気持ちは強いので、よろしくお願いしたい。

副会長 まだ、ご意見等あるかと思いますが、時間となりましたのでここで終了させていただきます。今回はまとめをしません、たくさんの意見を出していただきましたので、参考にして、事務局で生涯学習新世紀構想の見直し案の作成に向け、作業をすすめていただきたいと思います。また、委員のみなさんには県民カレッジの講座案内等を見ていただき、「県民カレッジのあり方」について、次回まで考えていただきたいと思います。本日は熱心にご審議をいただきありがとうございます。

以上のような討議の後閉会となった。

事務局より

今ほどの貴重なご意見を参考に幹事会及び事務局でまとめをしたいと考えております。また、次回の審議会は本年8月を予定しております。内容につきましては、この構想の諮問を予定しております。長い間のご審議ありがとうございました。以上をもちまして、第17回富山県生涯学習審議会を終了したいと思います。なお、今後、資料やアンケートでご意見をお聞かせいただくこともあろうかと思っております。その際にはご協力よろしくお願ひしたいと思います。どうもありがとうございました。